

幸田町地域公共交通計画(仮称)策定について

～都市交通施策に関するニーズ調査～

1. 調査目的

幸田町民を対象に、アンケート及びヒアリング調査を実施し、交通行動、公共交通の利用状況・ニーズ、公共交通のあり方に関する意向等を把握・整理し、公共交通に関する主要施策や幸田町の公共交通に関する将来像を検討するための基礎資料とする。

2. 調査対象・調査方法

住民意識調査の結果から、幸田町民の大半は、年齢層を問わず自家用車利用を前提とした生活スタイルの定着が伺われることから、コミュニティバスの主な利用者となり得る鉄道利用者、高齢者、中高生、企業、障害者団体を対象に調査を行った。

表 2-1 調査対象・調査手法

	調査対象	調査日時	調査手法	回収数
鉄道利用者	JR 東海道本線 鉄道駅利用者	令和 5 年 9 月 14 日 7～20 時	幸田町内の 3 駅（幸田駅、三ヶ根駅、相見駅）の駅前広場にて、調査員による聞き取り調査を実施。 また、立ち止まっの調査が難しい方に対しては、アンケート調査に関する QR コードを付与したチラシを配布。	195 件
高齢者	幸田町内の 高齢者	令和 5 年 9 月 18 日 ～9 月 29 日	幸田町に居住する 65 歳以上の男女から無作為に抽出した人を対象に、紙媒体による郵送配布・郵送回収アンケート調査を実施。	80 件※
中高生	幸田町内の 中高生	令和 5 年 9 月 11 日 ～9 月 18 日	教育委員会を通じ、幸田町内の中高生（幸田高等学校、幸田中学校、南部中学校、北部中学校）を対象に、WEBアンケート調査を実施。	564 件
企業	幸田町周辺に 立地する企業	令和 5 年 9 月下旬	幸田町周辺に立地する企業の通勤手当や企業バス等を扱う部署の担当者の方に、アンケート調査を実施。	5 事業所
町民	幸田町民	令和 5 年 10 月 9 日 ～10 月 20 日	幸田町に居住する男女から無作為に抽出した人を対象に、紙媒体による郵送配布・郵送回収アンケート調査を実施。	調査中
障害者団体	幸田町内の 障害者団体	令和 5 年 9 月 7 日、 9 月 21 日	幸田町内の障害者団体（幸田町身体障害者福祉協会、幸田町手をつなぐ育成会、幸田町聴覚障害者福祉協会）の代表者の方を対象にヒアリング調査を実施。	3 団体

※10/13 時点で回収・入力できたもので集計

3. 調査項目

幸田町民を対象に、普段の交通行動、送迎の状況、公共交通の利用状況・ニーズ、公共交通のあり方について、アンケート調査及びヒアリング調査を実施した。

調査項目と調査対象の対応は、以下のとおりである。

表 3-1 調査対象・調査手法

調査項目		調査対象					
分類①	分類②	鉄道	高齢者	中高生	企業	町民	障害者
普段の交通行動	平日の移動		●			●	
	休日の移動		●			●	
	高齢者の外出		●				
	鉄道の利用	●					
	就業形態、通勤時の交通手段				●		
送迎の状況	送ってもらう		●	●		●	
	誰かを送る		●			●	
公共交通の利用状況・ニーズ	えこたんバス		●	●		●	ヒア※1
	チョイソコこうた		●			●	
	藤田乗合直行タクシー		●			●	
公共交通のあり方	優先すべき目的	●	●	●		●	
	社会参加介護用に必要と思う支援		●				ヒア※1
	外出断念の経験の有無		●	●			
	公共交通の適正化に向けた参加・協力意向	●	●	●		●	
	マイカー通勤の抑制				●		

ヒア※1…ヒアリング調査により、公共交通を利用した移動の際の問題・課題や、福祉タクシー等の利用状況を聞き取り。

4. 調査結果の抜粋

4.1 普段の交通行動

4.1.1 平日の移動

高齢者の外出目的として、買い物（日用品）による外出の割合が最も高かった。幸田町内の商業施設等の目的地となり得る施設は、3 駅（幸田駅、三ヶ根駅、相見駅）周辺や幸田町の中心部に集中して立地していることから、高齢者の移動ニーズは3 駅（幸田駅、三ヶ根駅、相見駅）周辺や幸田町の中心部に集中している可能性がある。

なお、外出手段の大半は自動車（自分で運転）であった。

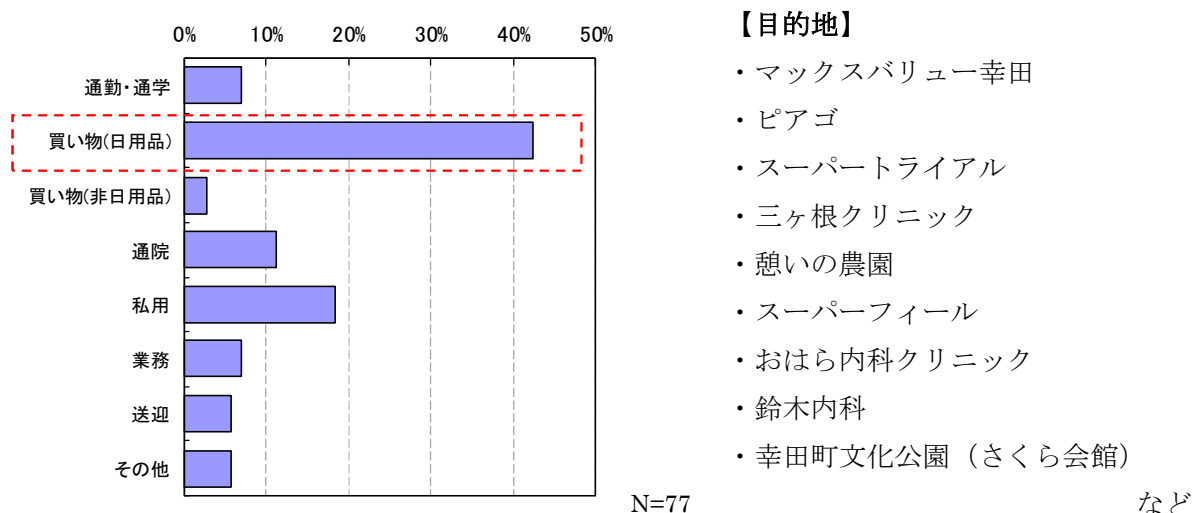


図 4-1 平日の外出目的と目的地（高齢者）

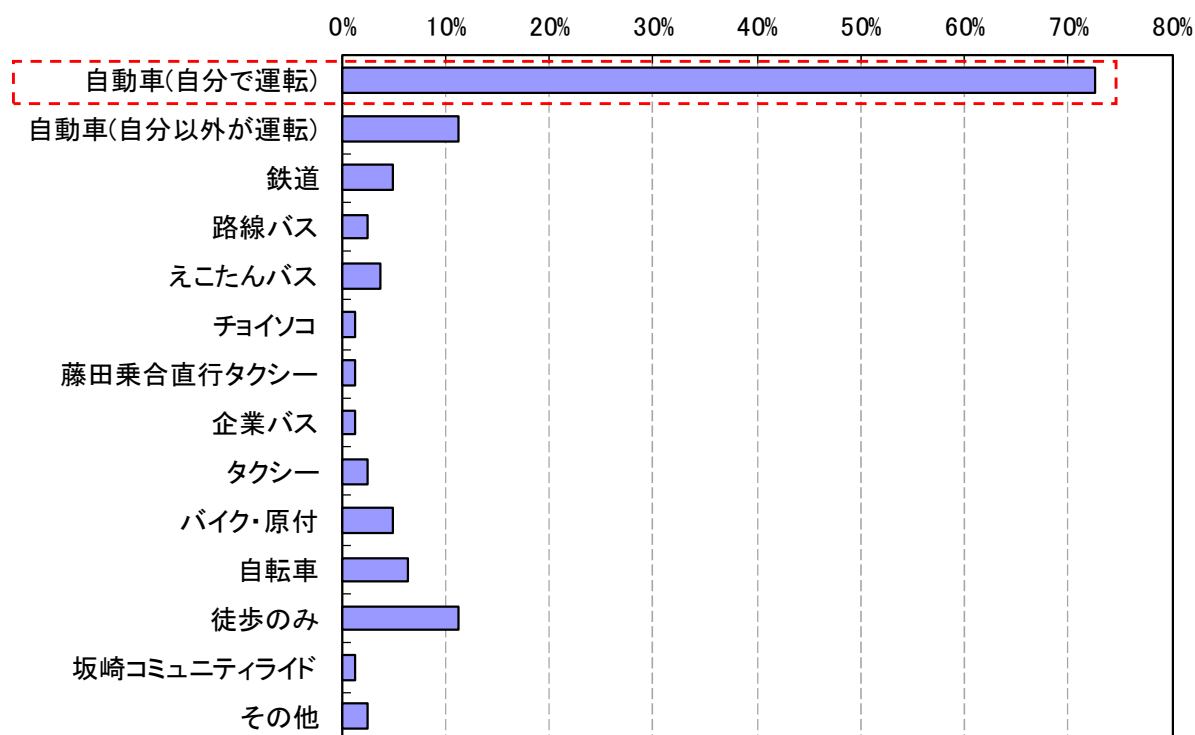


図 4-2 平日の外出手段（高齢者）

4.1.2 休日の移動

休日についても、平日とほぼ同様に買い物（日用品）による外出の割合が最も高かったが、買い物（非日用品）や私用の割合が、平日と比較してやや高い傾向にあった。目的地として、イオンモール岡崎等の幸田町外の施設への移動も一定数みられた。

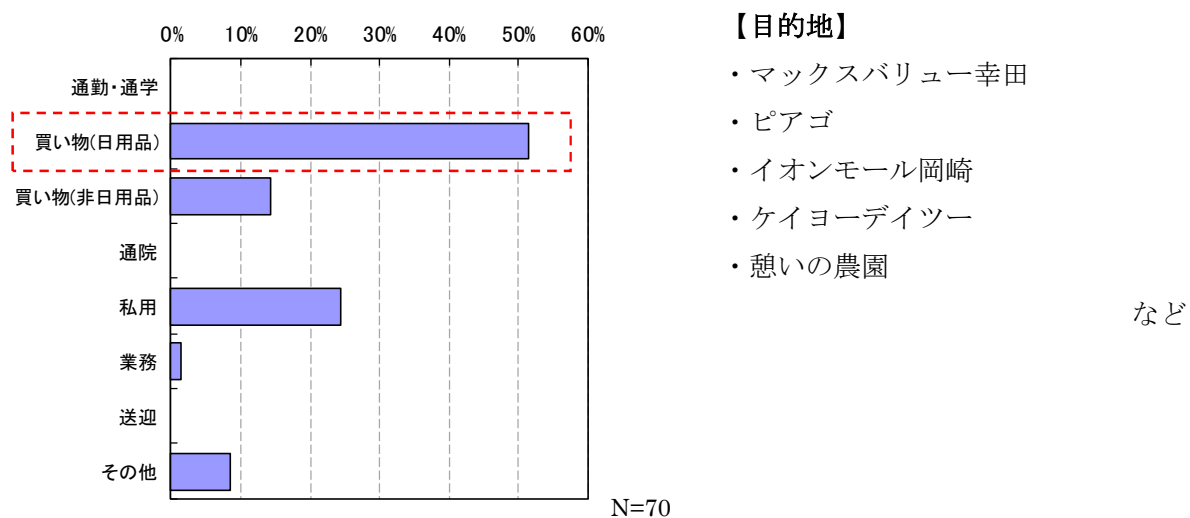


図 4-3 休日の外出目的と目的地（高齢者）

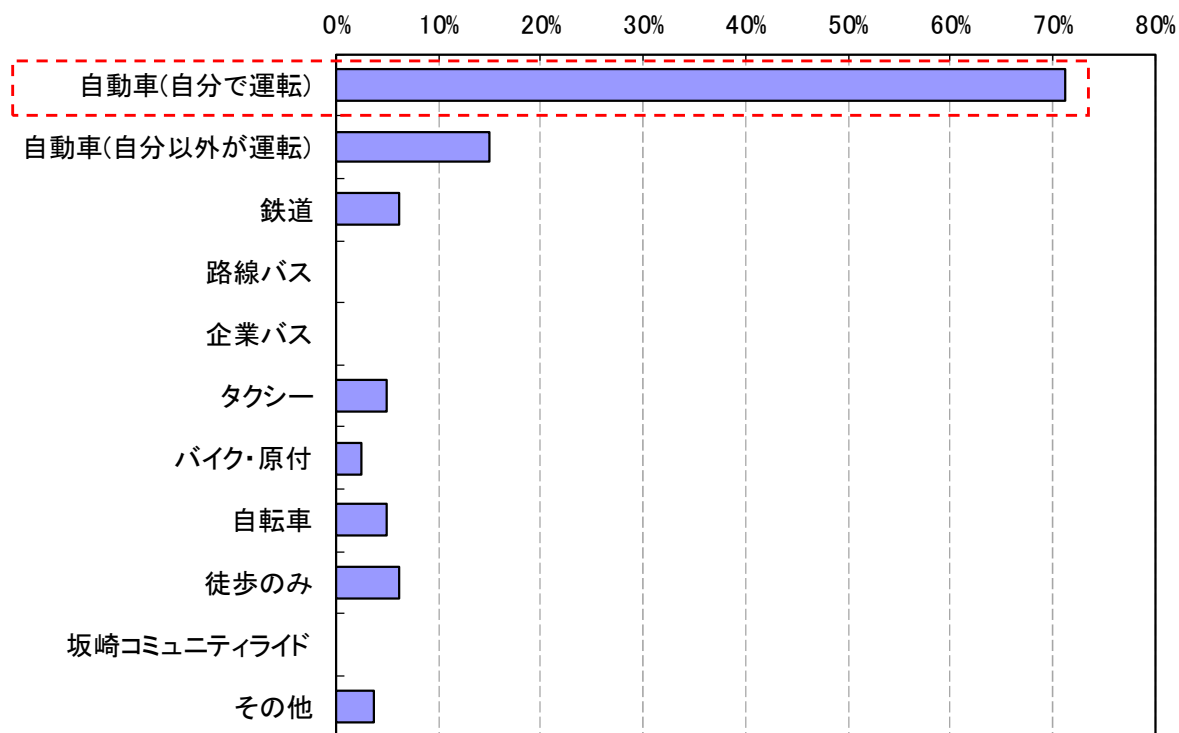
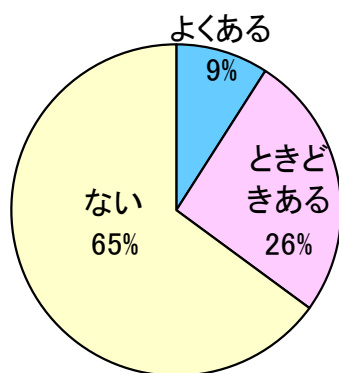


図 4-4 休日の外出手段（高齢者）

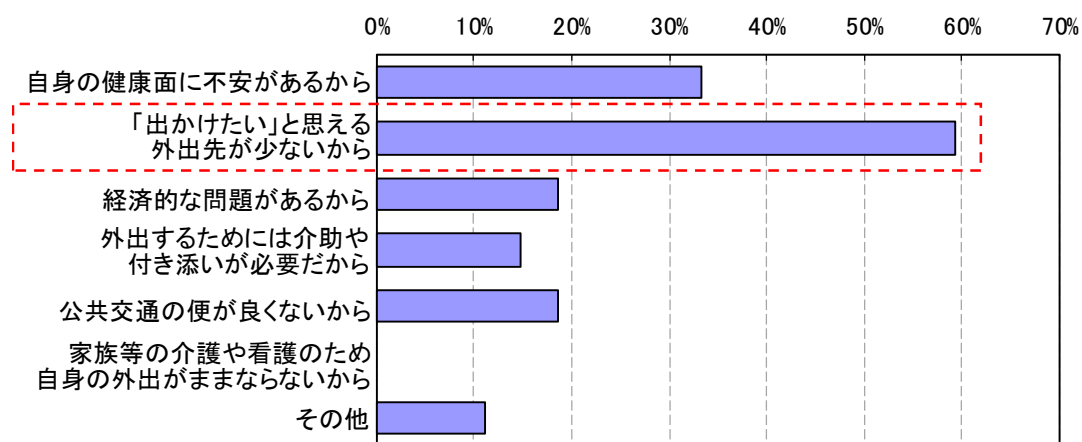
4.1.3 高齢者の外出

外出が「むずかしい」「おっくう」と感じる人が「よくある」「ときどきある」と回答した人は、概ね3割程度であった。また、外出が「むずかしい」「おっくう」と感じる理由として、「出かけたい」と思える外出先が少ないから」が最も多く、約6割を占めていた。移動手段の確保だけでなく、外出をするキッカケ作りについても課題が存在している。



N=77

図 4-5 外出が「むずかしい」「おっくう」と感じること（高齢者）



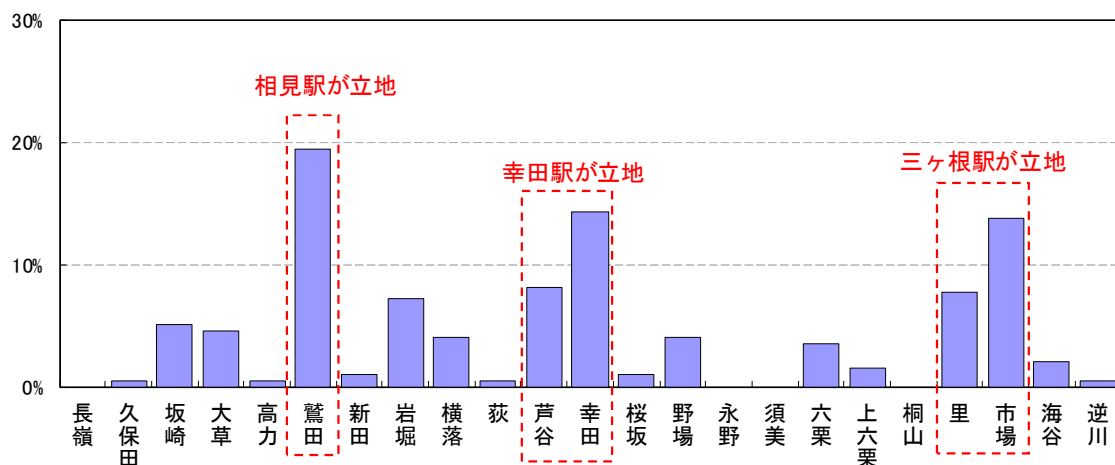
N=27

図 4-6 外出が「むずかしい」「おっくう」と感じる理由（高齢者）

4.1.4 鉄道の利用

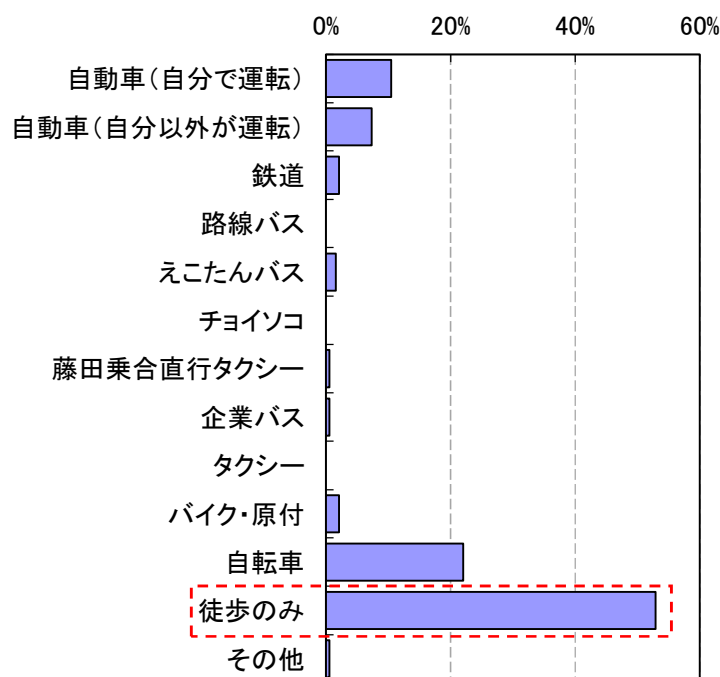
鉄道利用者（回答者）の住んでいる地区として、各駅が立地する地区（相見駅：鷺田区 幸田駅：幸田区 芦谷区 三ヶ根駅：里区 市場区）に在住の回答者が多かった。駅に向かう交通手段としては「徒歩のみ」が卓越して多く、次いで自転車、自動車（自分で運転、自分以外が運転）が多い。

徒歩で駅にアクセスできる人しか駅を利用していないこと、駅アクセスに課題があることが想定される。



N=195

図 4-7 住んでいる地区（鉄道利用者）



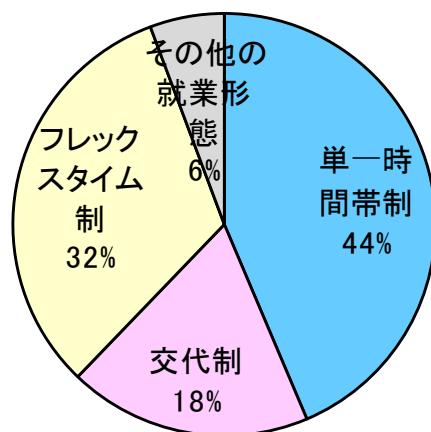
N=191

図 4-8 駅までの交通手段（鉄道利用者）

4.1.5 就業形態、通勤時の交通手段

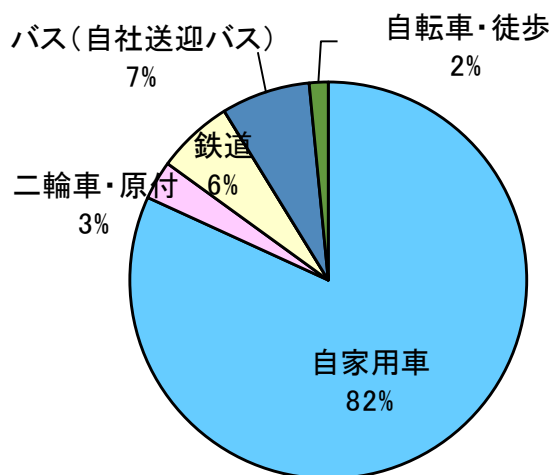
就業形態としては、「単一時間帯制」が最も多く約4割を占めていた。次いで、「フレックスタイム制」が多く約3割を占めていた。「フレックスタイム制」や「交代制」の割合が一定数存在しており、通勤時間の平準化がある程図られていることが考えられる。

従業員の通勤時の交通手段は、自家用車が約8割を占めていた。



N=5

図 4-9 就業形態（企業ヒアリング）



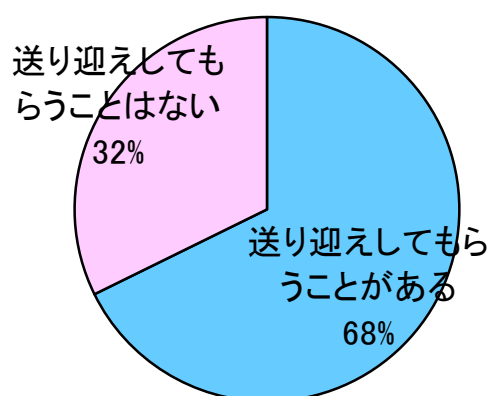
N=5

図 4-10 就業形態（企業ヒアリング）

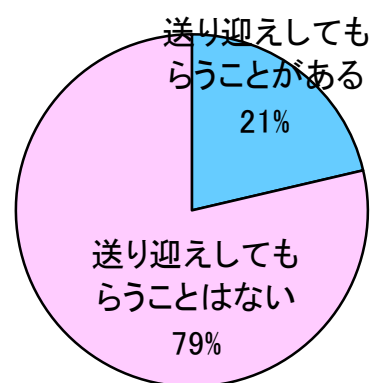
4.2 送迎の状況

送り迎えしてもらう経験として、中高生は約 7 割、高齢者は約 2 割が「送り迎えしてもらうことがある」と回答していた。特に、中高生においては、日常の移動手段として、送迎による移動が大きな役割を担っていることが考えられる。

また、公共交通で行ける場合の意向は、中高生は約 3 割、高齢者は約 1 割が公共交通で移動すると回答しており、中高生の方が高齢者より公共交通の利用に対する意向がやや高い。



n=564



n=75

図 4-11 送り迎えしてもらう経験（中高生）

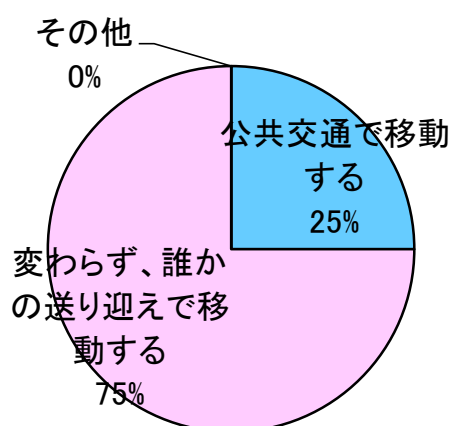
図 4-12 送り迎えしてもらう経験（高齢者）

【目的地】

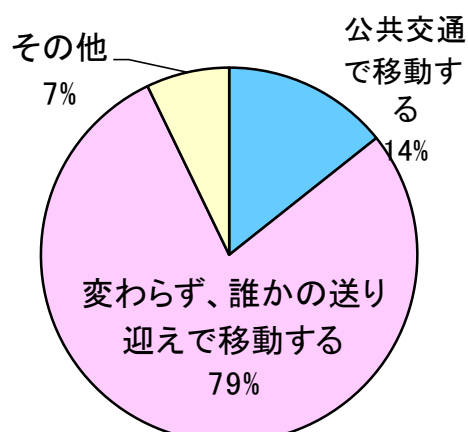
幸田高校、買い物、幸田中学校、岡崎駅、相見駅、三ヶ根駅、中央公民館、塾、習い事

【目的地】

飲食店、医院、かんだ整形外科、つつじヶ丘、幸田内科クリニック、憩いの農園



n=364



n=14

図 4-13 公共交通で行ける場合の意向

図 4-14 公共交通で行ける場合の意向

（中高生）

（高齢者）

4.3 公共交通の利用状況・ニーズ

4.3.1 えこたんバス

いずれの調査においても、えこたんバスの利用頻度について「ほとんど利用しない」と回答した人の割合は9割以上であった。利用者数が極端に少ないことから、バスサービスの根本的な再編が必要である。

「運行本数を増やす」を改善点として挙げる人の割合は、いずれの対象者（高齢者、中高生、鉄道利用者）においても高かった。えこたんバスのルートは、一周当たりの所要時間が約1時間と長大な路線なっていることから、ルートのコンパクト化を図り、一周当たりの所要時間を短縮し、運行本数を確保する必要があると考えられる。

「休日も運行する」を改善点として挙げる人の割合は、いずれの対象者（高齢者、中高生、鉄道利用者）においても高かった。仕事や学校以外の移動での利用ニーズがあることが、回答率に影響していると考えられる。

鉄道利用者、中高生においては、「運行時間帯を拡大する（朝）」に対するニーズが高い。仕事や学校へ向かう際の通勤・通学での移動での利用ニーズがあることが、回答率に影響していると考えられる。

高齢者、中高生においては、「バス停に休憩施設（屋根、ベンチ等）を設置する」ことに対するニーズが高い。各停留所の乗降者数を踏まえ、優先順位を設定した上で、必要に応じて休憩施設（屋根、ベンチ等）を設置することが必要である。



図 4-15 えこたんバスの利用頻度

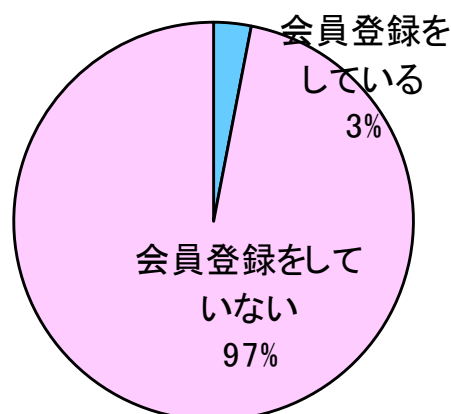
表 4-1 えこたんバスの改善点に関する意向

	鉄道利用者	高齢者	中高生
運行本数を増やす	36%	20%	38%
運行時間帯を拡大する（朝）	21%	11%	20%
運行時間帯を拡大する（夜）	13%	5%	14%
休日も運行する	30%	20%	28%
所要時間を短縮する	5%	10%	7%
駅との乗継を改善する	23%	16%	19%
自宅近くにバス停を設置する	14%	9%	26%
バス停に休憩施設（屋根、ベンチ等）を設置する	6%	23%	29%
その他	25%	18%	12%
	N=195	N=80	N=564

※指摘率20%以上を黄色で着色

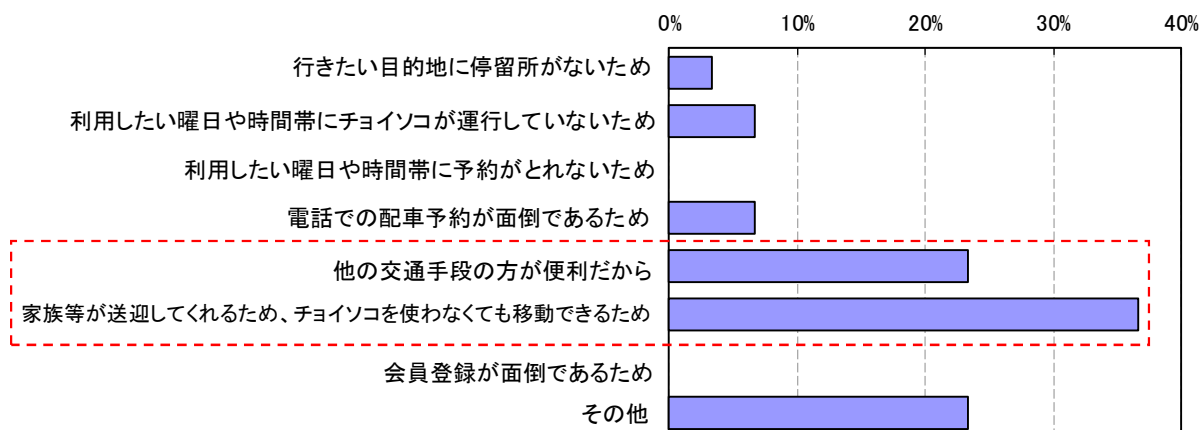
4.3.2 チョイソコこうた

会員登録率は1割弱であることから、会員登録者数自体が少ないことが、利用者数が伸びない要因となっている可能性がある。また、チョイソコこうたの会員登録をしていない理由として、「他の交通手段の方が便利だから」「家族等が送迎してくれるため、チョイソコを使わなくても移動できるため」の回答率が高いことから、認知度の向上や地域への働きかけ等により、公共交通を使う習慣作り等の利用促進面での取組みが必要である。



N=33

図 4-16 会員登録の有無（高齢者）

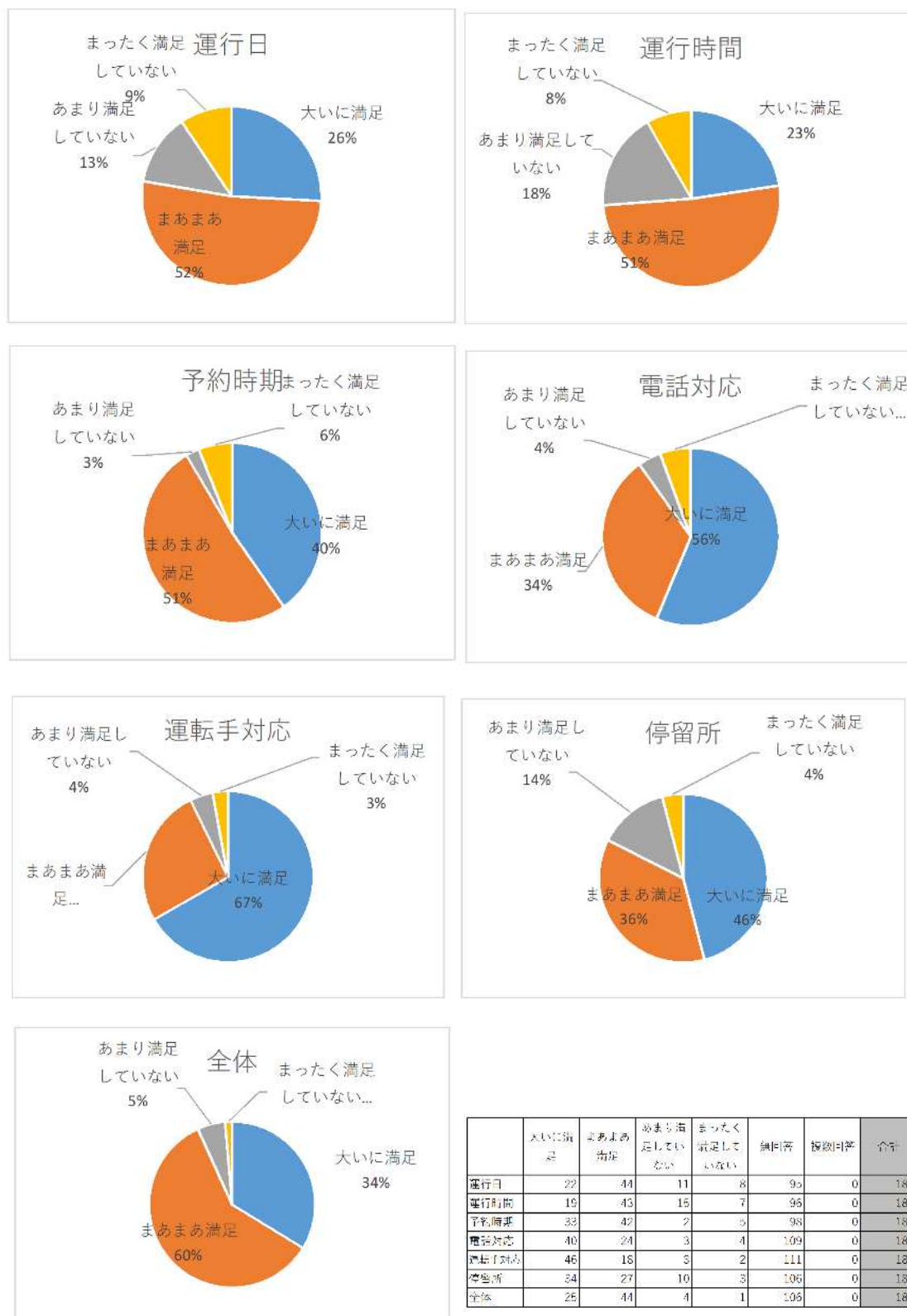


N=30

図 4-17 会員登録をしない理由（高齢者）

【参考：チョイソコこうたの満足度（利用者アンケート調査）】

チョイソコこうたの満足度は、各項目において「まあまあ満足」「大いに満足」が大半を占めていた。



出典：チョイソコこうたアンケート集計結果（令和5年3月実施）

4.3.3 藤田乗合直行タクシー

藤田乗合直行タクシーの利用頻度として、約 10 割の人が「ほとんど利用しない」と回答しており、利用者からの使いやすさの面で課題があることが考えられる。

「自宅の近くに停留所を増やす」を改善点として挙げる人の割合が最も高かったことから、利用者の居住地から停留所へのアクセスに課題が生じている可能性がある。えこたんバスやチョイソコこうたとの連携により、停留所へのアクセス方法を確保する必要がある。

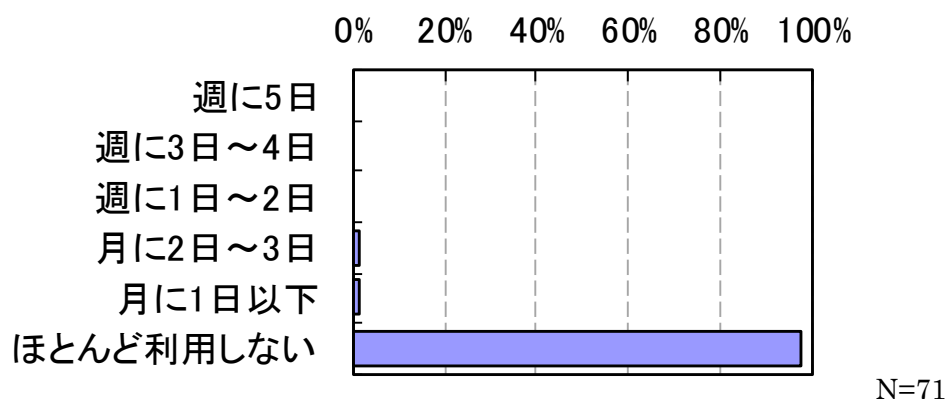


図 4-18 藤田乗合直行タクシー利用頻度（高齢者）

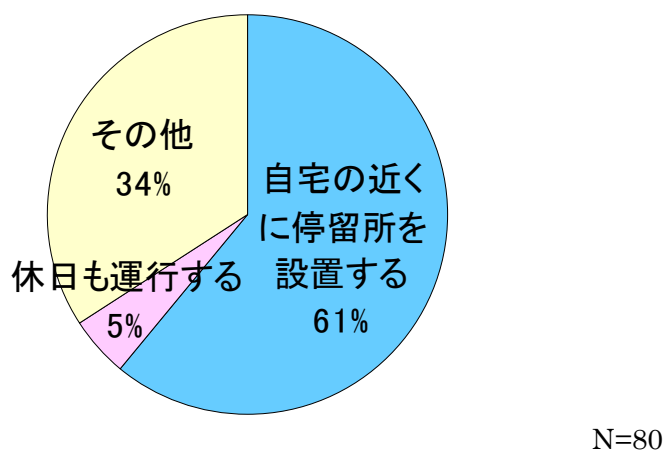


図 4-19 藤田乗合直行タクシーの改善点（高齢者）

4.4 公共交通のあり方

高齢者、中高生、鉄道利用者のいずれにおいても、「高齢者、身体障害者、妊産婦などの移動を便利にするため」を町の財政負担として優先して使われるべきものとして挙げる人の割合が最も高かった。公共交通の再編に当たっては、移動制約者の方の利用に配慮したサービスとすることが必要である。

町の財政負担として優先して使われるべきものとして、「駅、買い物、通院」へ便利に移動できるようにするため」を挙げる人の割合が高かった。公共交通の再編に当たっては、3駅（幸田駅、三ヶ根駅、相見駅）や幸田町の中心部へのアクセス性を向上させる方向性を目指すことが必要である。

表 4-2 公共交通の財政負担のあり方として、どのような「目的」に優先して使われるべきか

	鉄道利用者	高齢者	中高生
「通勤」で便利に移動できるようにするため	27%	8%	23%
学生が「通勤」で便利に移動できるようにするため	27%	11%	31%
「買い物」で便利に移動できるようにするため	27%	44%	18%
「通院」で便利に移動できるようにするため	29%	49%	20%
「駅」で便利に移動できるようにするため	32%	24%	36%
「役場」で便利に移動できるようにするため	7%	8%	5%
「町施設」で便利に移動できるようにするため	12%	19%	10%
高齢者、身体障がい者、妊産婦などの移動を便利にするため	46%	46%	43%
中学生、高校生などの移動を便利にするため	18%	6%	35%
分からない	9%	9%	19%
	N=192	N=80	N=564

※指摘率30%以上を黄色で着色

【障害者団体ヒアリングの意見（公共交通を利用した際の問題・課題）】

■えこたんバスについて

- ・緊急時の対応といった点で、バスの運転手の方が、耳が聞こえない人に対して、最低限の対応ができるかどうかも重要だと思う。例えば、伝言ボードのようなものがあれば良いかなと思う。筆談用のタブレットでも良いと思う。高齢者の方は、文字を打つことが難しいと思うので、指差しボードのようなものを作っておくと良いと思う。（聴）
- ・バスを待っている間の対応として、名古屋駅にあるようなバスロケーションシステムみたいなものがあると良いと思う。（聴）

■鉄道について

- ・三ヶ根駅は「エレベーターが無いから足が悪い人は大変」と聞いたことがある。また、駅員の方がいない無人駅なので、何かあった時に聞くことができないのは課題だと思う。（聴）
- ・三ヶ根駅にはエレベーターが無いという話はよく聞いている。（手）

■その他について

- ・福祉タクシーチケットを余暇的な移動で使うことに対する遠慮はあると思う。（身）

（聴）：幸田町聴覚障害者福祉協会

（手）：幸田町手をつなぐ育成会

（身）：幸田町身体障害者福祉協会

5. 総括

5.1 移動実態

高齢者の外出目的として、買い物（日用品）による外出の割合が最も高かった。幸田町内の商業施設等の目的地となり得る施設は、3 駅（幸田駅、三ヶ根駅、相見駅）周辺や幸田町の中心部に集中して立地していることから、高齢者の移動ニーズは3 駅（幸田駅、三ヶ根駅、相見駅）周辺や幸田町の中心部に集中している可能性がある。

外出が「むずかしい」「おっくう」と感じる理由として、「「出かけたい」と思える外出先が少ないから」が最も多く、約 6 割を占めていた。移動手段の確保だけでなく、外出をするキッカケ作りについても課題が存在している。

5.2 えこたんバス

いずれの調査においても、えこたんバスの利用頻度について「ほとんど利用しない」と回答した人の割合は 9 割以上であった。利用者数が極端に少ないことから、バスサービスの根本的な再編が必要である。

「運行本数を増やす」を改善点として挙げる人の割合は、いずれの対象者（高齢者、中高生、鉄道利用者）においても高かった。えこたんバスのルートは、一周当たりの所要時間が約 1 時間と長大な路線なっていることから、ルートのコンパクト化を図り、一周当たりの所要時間を短縮し、運行本数を確保する必要があると考えられる。

「休日も運行する」を改善点として挙げる人の割合は、いずれの対象者（高齢者、中高生、鉄道利用者）においても高かった。仕事や学校以外の移動での利用ニーズがあることが、回答率に影響していると考えられる。

鉄道利用者、中高生においては、「運行時間帯を拡大する（朝）」に対するニーズが高い。仕事や学校へ向かう際の通勤・通学での移動での利用ニーズがあることが、回答率に影響していると考えられる。

高齢者、中高生においては、「バス停に休憩施設（屋根、ベンチ等）を設置する」ことに対するニーズが高い。各停留所の乗降者数を踏まえ、優先順位を設定した上で、必要に応じて休憩施設（屋根、ベンチ等）を設置することが必要である。

5.3 チョイソコこうた

会員登録率は 1 割弱であることから、会員登録者数自体が少ないことが、利用者数が伸びない要因となっている可能性がある。認知度の向上や地域への働きかけ等により、公共交通を使う習慣作り等の利用促進面での取組みが必要である。

5.4 藤田乗合直行タクシー

利用者の居住地から停留所へのアクセスに課題が生じている可能性がある。えこたんバスやチョイソコこうたとの連携により、停留所へのアクセス方法を確保する必要がある。

5.5 公共交通のあり方

高齢者、中高生、鉄道利用者のいずれにおいても、「高齢者、身体障害者、妊産婦などの移動を便利にするため」を優先すべき目的として挙げる人の割合が最も高かった。公共交通の再編に当たっては、移動制約者の方の利用に配慮したサービスとすることが必要である。

「駅、買い物、通院」へ便利に移動できるようにするため」についても、優先すべき目的として挙げる人の割合が高かった。公共交通の再編に当たっては、3 駅（幸田駅、三ヶ根駅、相見駅）や幸田町の中心部へのアクセス性を向上させる方向性を目指すことが必要である。